



学校の窓 10月号

板橋区立板橋第四小学校

HP <http://www.ita.ed.jp/edu/ita4es/>

e-mail ita4es@ita.ed.jp

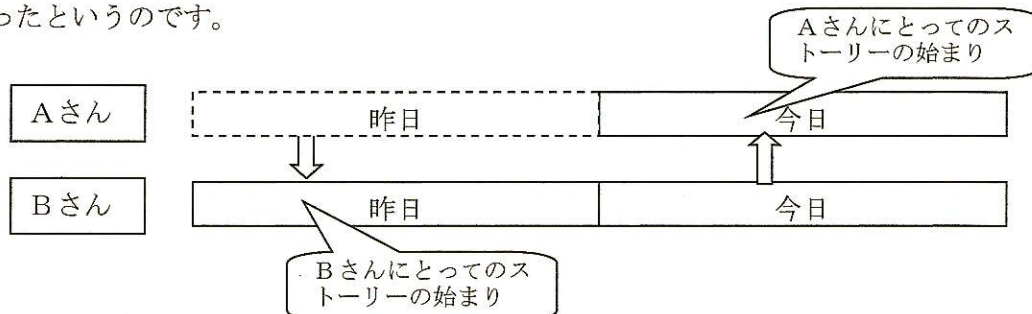
ストーリーは突然に

校長 堀内 祐子

今から、30年以上前になりますが、民放のドラマの主題歌として「ラブ・ストーリーは突然に」という歌が大ヒットしたのを、覚えている方はいらっしゃるでしょうか。ドラマは4人の若者の恋模様を描いたもので、ドラマが盛り上がるシーンになるとこの主題歌がテレビから流れてきたものでした。

実は、「ストーリーが突然」始まることは学校ではよくあることなのです。残念ながら「ラブ・ストーリー」のようなときめくものではなく、けんかやトラブルのストーリーです。

例えば、AさんとBさんがけんかをしたとします。当然、大人はその経緯を聞きとるのですが、Aさんは「自分は何もやっていないのにBさんに突然暴力を振るわれた」と言っています。一方Bさんは「Aさんが先に悪口を言ってきた」と言っています。Aさんにそのことを尋ねると、「悪口なんか言っていない」となり、話がかみ合いません。でも、よくよく聞きとると、Aさんが悪口を言ったのは実は「昨日」のことだったということです。



つまり、AさんとBさん、それぞれのストーリーの始まりの時点が異なっていたのです。そのため、Aさんにとっては「突然」Bさんに暴力を振るわれた、となるわけです。子どもたちは、自分がされた「嫌なこと」については強く印象に残っていますが、自分が相手にしたことについてはあまり覚えていないことがよくあります。Aさんにとってはとくに忘れていたことが、Bさんにとっては忘れられない「嫌なこと」だったのでしょう。こうしてみると、学校生活の中で子どもたちは同じ空間、同じ時を過ごしているように見えても一人一人の時の流れ方は微妙に異なるのではないかと思います。

さて、AさんとBさんのけんか、どのようにして解決に導いてあげたらよいのでしょうか。

子どもたちのけんかやトラブルの解決には、まず互いの相違を丁寧に聞き取り、なるべく一致させることから始まります。(完全に一致することはまずありません。) 今回のケースでも、Aさんが悪口を言ったのには何か理由があるのかもしれません。その部分をしっかりと解きほぐしてあげることが大切です。中には2～3年前から自分のストーリーが始まっている子もありますが、その子どもたちが過去を引きずるのは、そのときどきのトラブルの解決に納得がいっていないことが原因なのかもしれません。

その後は、今回のけんかについてそれぞれの「想い」や「気持ち」に寄り添いながらも、自分の「行動」によって相手がどのような気持ちになったか、考えさせます。次に、悪口や暴力ではなく、自分の思いを伝えるために他の方法はなかったのかを考えさせます。そして最後に、このけんかを解決するために「自分」が次にとるべき行動を考えさせます。

学校は警察や裁判所ではありません。ですから、Aさん、Bさんのどちらが「正しい」、どちらがより「悪い」などの白黒をつける場ではありません。成長過程にある子どもたちに寄り添い、失敗や成功から学ばせながら、一人一人の成長を促していく、そんな場でありたいと思っています。

そして、せっかく「あの日」「あのとき」「あの場所」で出会った仲間たちとすてきな時間を積み重ねていける場でありたいと思います。

東京都教育委員会の施策で、10月から小学校低学年にエデュケーション・アシスタントが2名配置されることになりました。職務内容は主に担任の補助です。本校は、第2・第3学年に配置します。